

第1節 薬局の機能推進対策

【現状と課題】

| 現 状  | 課 題  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 休日・夜間の調剤応需及び医薬品の供給に地域格差があり十分ではありません。</li> <li>○ 在宅医療に関わる薬局の環境整備が十分ではありません。</li> <li>○ 薬局許可件数に対し麻薬小売業者の免許件数は年々増加傾向にありますが、まだ62%程度です。(平成24年度末現在)</li> <li>○ 薬局における安全管理指針及び医薬品安全使用のための業務手順書が作成されていますが、従事者に対する周知徹底が十分とはいえません。</li> <li>○ 医薬品に対する相談が増加する中、適切な情報提供や相談応需のための配慮が十分でない薬局があります。</li> <li>○ お薬手帳の普及は年々進んでいますが、まだ活用が十分ではありません。</li> <li>○ 妊娠・授乳中の薬物投与に関する薬局薬剤師の取り組みは年々進んでおりますが、まだ十分ではありません。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療圏あるいは地区ごとに薬局が連携し休日・夜間における調剤医薬品等の供給体制を構築する必要があります。</li> <li>○ 在宅医療を行う診療所や訪問看護ステーション・居宅介護支援所等と連携し、訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導業務を通じて在宅医療に積極的に取り組む必要があります。</li> <li>○ 緩和ケア医療への貢献として、麻薬小売業者の免許を取得し、医療用麻薬を供給しやすい環境整備を図る必要があります。</li> <li>○ 安全管理体制等の整備を支援する必要があります。</li> <li>○ 愛知県薬剤師会等との連携によりインターネット等により情報を得ることができる環境整備を行い患者のプライバシーを配慮しつつ最新・最適な情報提供に取り組む必要があります。</li> <li>○ 複数医療機関受診、転居時、災害時等のためお薬手帳を普及させる必要があります。</li> <li>○ 妊娠・授乳中の薬物投与に関する薬局薬剤師の取り組みや体制づくりを支援する必要があります。</li> </ul> |

【今後の方策】

- 医療連携体制整備に向けて薬局が積極的に参画し、休日・夜間における医薬品等の供給を行う体制整備の促進を図るよう支援します。
- 在宅医療や緩和ケア医療に薬局が積極的に参画できるよう支援します。
- 消費者向け講習会やお薬手帳の活用に積極的に取り組みます。
- 妊娠・授乳中の薬物投与に関する薬局薬剤師の取り組みや体制づくりを支援します。